

インドネシア異文化体験プログラムで学んだこと

田淵 陸（現代ビジネス学部 国際社会学科）

私がインドネシア異文化体験実習を通じて異文化だと感じたことはたくさんあった。

まず、私がデンパサール空港から出た時に思ったことは、車の量とバイクの量が物凄く多いということだった。そして、日本だと基本的に左側通行で走行する車と対面する車の二車線で分かれているが、インドネシアの道路はよく分からなかった。ひとつの道路で二車線同じ方向に車両が進んだりしていたからである。バイクでいうと、ヘルメットつけていなかったり、2人乗りや3人乗りがよく見られりしたため驚いた。その他、車もどんどん前の車などを追い越したり、といった日本ではマナーの悪いと思われる運転が多いなと思ったが、私はその自由さがとても良いなと思った。しかし、事故は多いと聞いたのでやはり日本のルールも大切なのだなとも思えた。

次に食事のマナーである。箸は使わずフォークスプーンもしくは手で食べるという文化は、やはり異文化だなと感じた。私は初日のマクドナルドでご飯などついたセットを食べたが、その時は手で食べることに對してかなり抵抗があった。しかし、アヤムゴレンなどを市場やクタビーチに行く途中のお店で食べた時にとても食べやすかったし個人的にはかなり楽で、日本で箸を使うのが面倒だなと思う程であった。

そして、宗教の違いは、授業などで話を聞くのと実際に体験するのでは全然感じるものが違うと分かった。中高生で宗教の大まかな違いなどを習い、当時はちょっとおかしい思想だなとか怖いなと思ったこともあった。特にイスラム教は怖いと思う時もあった。しかし、実際にスンバワ島でイスラム教の人々と触れ合うと全然違かった。先生も生徒もとても優しいし、もちろん私たちを接待してくれているのは理解しているが、日本の遊びなどを紹介した時にとても楽しそうにしている、不安だったスンバワ島の生活もとても楽しかった。このような点が、私が異文化だと感じたことであった。

次に、実習を通じて考えさせられたことと反省である。私がいちばん考えさせられ反省したことがある。それはバリ島やスンバワ島の人々と私たちの幸せについてである。私はまず特に思ったのが、スンバワ島に着いてすぐこの学校で人々が何を幸せと思っているのか、ということだった。日本の環境、いやむしろバリの環境までも比べてしまうほど私にとっては衝撃的な環境であったからだ。しかし、実際に2泊3日過ごすと、上でも述べたように遊びなど本当に楽しそうにしているし、日本の私たち学生よりもスンバワ島の高校生の方が頭がいいのではないかとと言えるほど素晴らしい人々であることが分かった。

そして、バリ島のローカルな市場などでは小さい子どもなどがティッシュを売りに来たりすることもあり、日本はそのような事はまずないので、日本は平和な国だななどと

思った時もあった。

このようなことは現地に行ったから思えたことであり、人々にはそれぞれの幸せがあるのだと実感した。私は今回、インドネシアの生活がとても幸せだったため、このような考えに至り、幸せについてのこれまでの自分の考え方を反省すべきと思った。そして、現地でこのようなことを思い反省できた経験はとても大切なものだと思った。

最後に実習を通じて成長したところと変わったと感じたことは、やるなら楽しむという気持ちを持てるようになったことだ。インドネシア行く前は本当に他の国に行くことが嫌で、できるだけ日本のような生活ができるような心構えで行ったのだが、現地に行くと、その場所の環境やローカルな環境を経験しないと勿体ないと思うようになり、手で食事をとることやちょっと汚いイメージのある市場などを積極的に行くようになった。この経験をしたことで日本では何に対しても楽しむことを大切に考えていこうと思えた。そして、「せっかくの機会なのだから、余程の体調不良では無い限り行事は参加しよう」とも思うようになった。これも「経験しないと勿体ない」と思ったし、「やるときはやるしかない、やるなら楽しむ」という気持ちをより持てるようになったきっかけとなった。

まだまだ、学んだことは沢山あるし旅行などではなく現地でこの実習を経験しないと実感できないことばかりで本当に素晴らしい経験になった。そして、素晴らしい経験に自分からすることが出来た。自分の中で自信を持てるストーリーも作ることができ、日本のどのようなことも乗り越えられると思えるような実習にできてよかった。





